

## 学会記事

## I. 運営委員会報告

2010年6月22日から28日にかけて、メール審議により2010年度学会各賞の受賞候補者について審議し、受賞者を決定した。

2010年9月11日に北海道立道民活動センターかでの2・7(札幌市)において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2009年度収支決算(案)について審議した。
2. 2010年度収支予算(案)について審議した。
3. 会員名簿の発行について審議し、2010年度は連絡先の一部非掲載を選択できるようにしたうえで、従来どおり印刷・配布することとした。
4. 2011年度からの学会事務代行の委託について審議し、委託業務は年度予算の範囲内におさめること、委託先は笹氣出版印刷株式会社とすることを決定した。
5. 第16回大会の開催について審議し、2011年9月24日から26日に神戸大学で開催することとした。

## II. 編集委員会報告

2010年9月11日に北海道立道民活動センターかでの2・7(札幌市)において定例の委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 委員会組織や委員の任期等に関して審議し、内規を定めた。
2. 植生学会誌における学名の表記についての指針を定め、会員向けに公表することとした。

3. 植生学会誌の編集方式について審議し、1名の編集委員が校閲者の選任、原稿の調整、掲載の可否判定を行う担当編集委員制の導入を決定した。事務体制や作業マニュアルが整い次第、新編集方式に順次移行する。

## III. 企画委員会報告

2010年9月11日に北海道立道民活動センターかでの2・7において開催し、シカ影響アンケート調査結果の公表方法、群落談話会の開催について審議した。

## IV. 表彰委員会報告

2010年9月11日に北海道立道民活動センターかでの2・7において開催し、研究発表賞の選考実施方法、選考過程の透明化について審議した。

## V. 群集検討ワーキング報告

2010年7月4日に千葉大学園芸学部(松戸市)でワーキングを開催したほか、メール審議により答申案を作成した。2010年9月9日に、沖津座長から福岡会長へ答申を提出した。

## VI. 2010年度総会報告

2010年9月12日に北海道立道民活動センターかでの2・7において2009年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

## 別掲1. 植生学会2009年度収支決算

(単位: 円)

| 収入の部                 | 予 算       | 決 算        | 差 異        | 備 考                         |
|----------------------|-----------|------------|------------|-----------------------------|
| 前期繰り越し               | 5,026,138 | 5,026,138  | 0          |                             |
| 会費                   | 3,384,000 | 3,654,000  | -270,000   |                             |
| バックナンバー売り上げ          | 200,000   | 31,200     | 168,800    |                             |
| 雑収入                  | 500,000   | 504,462    | -4,462     |                             |
|                      |           | (107,787)  |            | 内訳1: 著作権使用料など               |
|                      |           | (396,675)  |            | 内訳2: 植生学会誌別刷・超過ページ・英文校閲料の立替 |
| 利息                   | 500       | 207        | 293        |                             |
| 計                    | 9,110,638 | 9,216,007  | -105,369   |                             |
| 支出の部                 | 予 算       | 決 算        | 差 異        | 備 考                         |
| 植生学会誌刊行費 900,000円×2回 | 1,800,000 | 1,628,246* | 171,754    | *第26巻1号・2号                  |
| 植生情報刊行費 400,000円×1回  | 400,000   | 397,950*   | 2,050      | *第13号                       |
| 学会事務局経費              | 700,000   | 656,446    | 43,554     |                             |
| 編集事務局経費              | 150,000   | 36,959     | 113,041    |                             |
| 植生情報編集費              | 40,000    | 22,951     | 17,049     |                             |
| 企画委員会経費              | 600,000   | 478,660*   | 121,340    | *第7回シンポジウム                  |
| 表彰委員会経費              | 150,000   | 83,725     | 66,275     |                             |
| 大会補助費                | 350,000   | 350,000*   | 0          | *第14回大会                     |
| 予備費                  | 4,920,638 | 359,130    | 4,561,508  |                             |
|                      |           | (133,200)  |            | 内訳1: 群集検討WG                 |
|                      |           | (64,510)   |            | 内訳2: 鈴木時夫博士文献整理             |
|                      |           | (161,420)  |            | 内訳3: 植生学会誌別刷・超過ページ・英文校閲料の立替 |
| 計                    | 9,110,638 | 4,014,067  | 5,096,571  |                             |
| 収支差額(繰り越し)           | 0         | 5,201,940  | -5,201,940 |                             |

## A. 報告事項

## 1. 学会事務局

2010年9月7日現在の会員数（正会員578名、団体会員13団体、賛助会員1団体）が報告された。

## 2. 各種委員会

上記I-Vの運営委員会、各種委員会およびワーキングの審議事項が報告された。

## B. 承認事項

1. 2009年度収支決算（別掲1）を承認した。

2. 2010年度収支予算（別掲2）を承認した。

## C. その他

1. 第16回大会開催地となる神戸大学の武田義明氏より、多数会員の参加が要請された。

## VII. 学会賞

2010年度の学会各賞の受賞者は以下のとおり、授与式は2010年9月12日に行われ、各賞受賞者に表彰状と記念品が福岡司会長から贈呈された。

植生学会賞 前迫ゆり（大阪産業大学大学院人間環境学研究科）

植生学会奨励賞 蛭間 啓（飯田市美術博物館）

植生学会功労賞 佐々木寧（埼玉大学大学院理工学研究科）

植生学会特別賞 中西 正（愛知県立豊橋西高等学校）

植生学会研究発表賞

口頭発表賞 齋藤康宏（東京情報大学大学院総合情報学研究科）

灌漑用水路を介した特定外来生物ナガエツルノゲイトウの10年間の分布拡大

ポスター発表賞 大津千晶（東京農工大学大学院農学府）

植物の機能型構成からみた草原植生の約25年間の変化

## VIII. 植生学会第15回大会報告

植生学会第15回大会（大会会長：佐藤 謙，実行委員長：富士田裕子）が、2010年9月11日から9月13日にかけて札幌市の北海道立道民活動センターかでの2・7において開催された（下記日程）。一般講演では口頭34題、ポスター36題の発表が行われた。参加者は予約申込者130名、当日参加者24名の計154名であった。

9月11日 各種委員会、運営委員会

9月12日 一般講演（口頭発表・ポスター発表）、学会賞授与式、総会、懇親会

9月13日 エクスカーション（Aコース：道央地域の落葉広葉樹林、Bコース：石狩低地帯の残存湿原）

一般講演は以下のとおりであった。

〈口頭発表〉

A01 北海道石狩平野美唄湿原における高層湿原植生域とササ侵入地の埋土種子組成。久保拓士（北大・院・農）・富士田裕子（北大・FSC・植物園）

A02 サロベツ稚咲内砂丘林帯における湖沼群植生と土地利用との関係。水田裕希（北大・院・農）・富士田裕子（北大・FSC・植物園）・藤村善安（北大・FSC・植物園）

A03 大雪山平ヶ岳南方湿原（バルサ湿原）における遺存種ムセンシゲの生育環境。加藤ゆき恵（北大・院・農）・富士田裕子（北大・FSC・植物園）

A04 玉原湿原における20年間の植生変遷。秋葉知律・福岡司（東京農工大・院・農）・井上香世子・吉田青子（玉原高原の自然を守り育てる会）

A05 蛇紋岩地の湿地植生、愛知県黄柳野湿地。中西正（豊橋西高校）

A06 比良八雲ヶ原北部湿原の自然再生 2. 復元工事から3年間の変遷。山崎俊哉・安藤義範・梅原徹（株式会社建設環境研究所）・丸井英幹（エコロジー研究所）

A07 湿原域の乾燥化と集水域の植生との関係。西本孝（岡山県自然保護センター）・片岡博行（重井薬用植物園）・波

## 別掲2. 植生学会2010年度収支予算

（単位：円）

| 収入の部        |             | 2010年度     | 2009年度    | 差 異      | 備 考                    |
|-------------|-------------|------------|-----------|----------|------------------------|
| 前期繰り越し      |             | 5,201,940  | 5,026,138 | 175,802  |                        |
| 会費          |             | 3,452,000* | 3,384,000 | 68,000   | *一般498,学生81,団体13,賛助1   |
| バックナンバー売り上げ |             | 20,000     | 200,000   | -180,000 |                        |
| 雑収入         |             | 500,000    | 500,000   | 0        |                        |
| 利息          |             | 500        | 500       | 0        |                        |
| 計           |             | 9,174,440  | 9,110,638 | 63,802   |                        |
| 支出の部        |             | 2010年度     | 2009年度    | 差 異      | 備 考                    |
| 植生学会誌刊行費    | 900,000円×2回 | 1,800,000* | 1,800,000 | 0        | *第27巻1号・2号             |
| 植生情報刊行費     | 500,000円×1回 | 500,000*   | 400,000   | 100,000  | *第14号                  |
| 学会事務局経費     |             | 900,000*   | 700,000   | 200,000  | *選挙関連経費、名簿印刷費を含む       |
| 編集事務局経費     |             | 100,000    | 150,000   | -50,000  |                        |
| 植生情報編集費     |             | 40,000     | 40,000    | 0        |                        |
| 企画委員会経費     |             | 400,000    | 600,000   | -200,000 |                        |
| 表彰委員会経費     |             | 150,000    | 150,000   | 0        |                        |
| 大会補助費       |             | 231,977*   | 350,000   | -118,023 | *第15回大会、2008年度支出済み分を除く |
| 予備費         |             | 5,052,463  | 4,920,638 | 131,825  |                        |
| 計           |             | 9,174,440  | 9,110,638 | 63,802   |                        |

- 田善夫 (岡山理大)
- A08 植生図化による松枯れ林の植物社会学的研究—広島県宮島の過去 35 年間の例— 谷川照樹 (広島大・院・理)・坪田博美 (広島大・院・理/広島大・院・理・宮島自然植物実験所)・向井誠二 (広島大・院・理・宮島自然植物実験所)・黒田有寿茂 (兵庫県立大・自然・環境研/人と自然の博物館)・豊原源太郎 (元広島大・院・理)
- A09 屋久島低地帯の照葉二次林における種組成・種多様性の特徴とシカの影響. 石田弘明・服部保・黒田有寿茂 (兵庫県立大・自然・環境研)・橋本佳延 (人と自然の博物館)・岩切康二 (岩切環境技研株)
- A10 四国山地三嶺地域の稜線部におけるミヤマクマザサ群落へのニホンジカの影響と植生変化. 石川慎吾・中嶋宏心・森本梓紗 (高知大・理)・坂本彰 (三嶺の森をまもるみんなの会)
- A11 春日山照葉樹林における防鹿柵と外来樹木のクリッピング効果. 前迫ゆり (大阪産大・院・人間環境)・名波哲 (大阪市大・院・理)・神崎護 (京大・院・熱農)
- A12 種子島におけるスダジイ, 雑種, ツブラジイの個体群分布の現状. 小林悟志 (新領域融合研究センター)
- A13 屋久島低地部の照葉樹林とスギ人工林における種組成および種多様性の比較. 黒田有寿茂・石田弘明 (兵庫県立大)・岩切康二 (岩切環境技研)・福井聡 (里と水辺研究所)・服部保 (兵庫県立大)
- A14 北海道東部, 嶮暮島嶺の植生と地形・土壌条件との関係. 志田祐一郎 ((株)野生生物総合研究所)・茂野朋昭 ((株)アレフ)・河原淳 (NPO 法人霧多布湿原トラスト)・植村滋 (北大・FSC)
- A15 北東アジア沿岸, 海洋域の植生から見た日本の高山・亜高山の植生地理. 沖津進 (千葉大・院・園芸)
- A16 地域植生図作成における既存 GIS データの活用—中国地方北東部の事例— 則行雅臣・中尾茂樹 (中外テクノス(株))・森定伸 ((株)ウエスコ)・永松大 (鳥取大学)・西本孝 (岡山県自然保護センター)・波田善夫 (岡山理科大学)
- A17 万葉集の植生学的研究 (2). 服部保 (兵庫県立大・自然・環境科学研究所)・南山典子 (兵庫県立人と自然の博物館)
- B01 北アルプス後立山連峰における高山植生の分布と地質との関係. 石田祐子 (東京農大・院・林学)・松江大輔 (箱根湿生花園)・井上亮平・武生雅明・中村幸人 (東京農大・地域環境)
- B02 外秩父山地において地すべり地の微地形と表層土壌により規定されるヤエガワカンバ林の分布要因. 小川滋之 (千葉大・院・園芸)
- B03 北限シオジ林のネコノメソウ属 *Chrysosplenium* (ユキノシタ科) 5 種の分布と生育立地. 深町篤子・星野義延 (東京農工大・院・農)
- B04 灌漑用水路を介した特定外来生物ナガエツルノゲイトウの 10 年間の分布拡大. 齋藤康宏・富田瑞樹 (東京情報大)・林紀男 (千葉中央博)・原慶太郎 (東京情報大)
- B05 日本の路面間隙植生の組成と生態的機能の多様性. 早坂大亮 ((独)国立環境研究所)・内田泰三 (九州産業大・工)・宮内大策 (横浜国大・院・環境情報)
- B06 機関車に生えるコケ: 鉄道車両の保存と植生. 持田誠 (北海道鉄道文化保存会)・佐々木美香 (小樽市総合博物館)・加藤ゆき恵 (北大・院・農)・内田暁友 (斜里町立知床博物館)
- B07 チュニジア共和国シャンビ国立公園における植生保護が種組成に及ぼす影響. 川田清和 (筑波大学北アフリカ研究センター)・鈴木康平 (筑波大学)・菅沼秀樹 (成蹊大学)・Abderrazak Smaoui (ボルジュセドリヤ・テクノパーク)・磯田博子 (筑波大学)
- B08 植生の分化成立に及ぼす地質の影響: カナダ, 中部ユーコンにおける事例. 小島覚 (北方生態環境研究学房)
- B09 神戸市再度山永久植生保存区における植物群落の 35 年間の変化. 武田義明・飯島尚子・猿田けい (神戸大・院・人間発達環境学)・小館誓治 (兵庫県立大・自然・環境研)
- B10 永久方形区による大雪山・小泉岳における高山植生のモニタリング—2003～2008 年の植生変化— 助野実樹郎 (北大・院・環境科学)
- B11 エコユニット工法施工地における 10 年目の植生復元状況. 桑原佳子・足立高行 (応用生態技術研究所)・中西茂樹 (エコユニット協会)
- B12 農業水路に分布する水生植物の季節変化に対する空間構造の影響. 池田浩明・石坂真澄・山中武彦・細木大輔・稲生圭哉・山本勝利 (農業環境技術研究所)
- B13 高水敷を切り下げて造成した攪乱頻度の高い礫河原における植生の変化. 星野義延 (東京農工大・院・農)
- B14 河辺植生における外来植物群落の位置づけについて. 村上雄秀 (国際生態学センター)・西川博章 ((株)ラーゴ)・中村幸人 (東京農大)
- B15 日本海型ブナ林構成種の葉緑体 DNA ハプロタイプの地理的変異. 蛭間啓 (飯田市美術博物館)・佐伯いく代 (横浜国立大・院・環境情報)
- B16 冷温帯下部夏緑広葉樹林における林床植生と微地形の対応. 若松伸彦・竹内英人・加藤崇行・石田祐子・武生雅明・中村幸人 (東京農大・地域環境)
- B17 微地形と気候条件に応じた照葉樹林林床のシダ類のリーフサイズ変化. 大野啓一 (千葉県立中央博物館)
- 〈ポスター発表〉
- P01 現地調査の蓄積による鳥取県の植物分布と環境要因の解析. 永松大・中嶋幸宏 (鳥取大・地域)・坂田成孝 (鳥取県植物誌研究会)
- P02 地域植生図作成における組成調査データの活用—大山および中国山地東部の事例— 森定伸 ((株)ウエスコ)・中尾茂樹・則行雅臣 (中外テクノス(株))・永松大 (鳥取大・地域)・西本孝 (岡山県自然保護センター)・波田善夫 (岡理大・生地)
- P03 大山および中国山地東部の植生と立地環境. 中尾茂樹・則行雅臣 (中外テクノス(株))・森定伸 ((株)ウエスコ)・永松大 (鳥取大・地域)・西本孝 (岡山県自然保護センター)・波田善夫 (岡理大・生地)
- P04 湿性型ブナ林における林床植生の 22 年間の変化. 小原由起・星野義延 (東京農工大・院・農)・武生雅明 (東京農大・地域環境)
- P05 東日本におけるブナ林下の土壌. 高橋純子・東照雄・田

- 村憲司・上條隆志 (筑波大・生命環境科学研究科)
- P06 玉原高原におけるブナ林の動態—ブナ実生・稚樹の生存率・成長量からの考察—, 岡田彩 (東京農工大・院・農)・福嶋司 (東京農工大学・院・農)
- P07 ブナ・イヌブナ共存林分における樹木群集の組成と構造に地形が与える影響, 富田瑞樹 (東京情報大学)・平吹喜彦 (東北学院大学)・齋藤康宏・原慶太郎 (東京情報大学)
- P08 北海道豊浦町礼文華峠におけるブナ孤立個体群の立地と植生, 松井哲哉・北村系子 (森林総研・北海道)・齋藤均 (黒松内町ブナセンター)・並川寛司 (北教大・札幌校)・寺澤和彦 (北海道立総合研究機構)・本間祐希 (北教大・札幌校)・三好祐司 (北大・環境科学)・内田健一 (黒松内町)・鈴木隆 (豊浦町)・春木雅寛 (北大・地球環境科学)・紀藤典夫 (北教大・函館校)
- P09 阿武隈高地東部における垂直分布帯構造と冬・春期の温湿度環境について, 佐野哲也 (東大・新領域, 森林総研・立地環境)・小出大 (横浜国大・環境情報)
- P10 千葉県佐倉市畔田谷津における森林群落の種多様性と環境要因の関係, 井上恵理・加藤太陽・富田瑞樹・原慶太郎 (東京情報大学)
- P11 武蔵野のコナラ二次林の管理のちがいによる種組成の比較, 権田亜実・星野義延 (東京農工大・院・農)・八木正徳 (都立新島高校)・篠原正太 ((株)環境プロデュース)
- P12 カラマツ伐採跡地の天然更新に影響する要因, 今博計・菅野正人・真坂一彦・鳥田宏行・福地稔・秋本正信・木幡靖夫・八坂通泰・石濱宣夫・蓮井聡 (北海道総研・林試)・大橋徹也 (十勝総合振興局・森林室)
- P13 滋賀県近江八幡市八幡山における1960年代以降の竹林分布に対する地形の影響, 鈴木重雄 (立正大・地球環境)
- P14 栃木県箒川における群落複合の分布と河川の地形的特性との関係, 篠原光礎・吉川正人・星野義延 (東京農工大・院・農)
- P15 上高地梓川河畔林における林床植物の多様性と氾濫の影響, 川西基博 (鹿児島大・教育)
- P16 サロベツ湿原における高層湿原植生からササ群落への遷移過程の解析, 藤村善安 (北大・FSC・植物園)・高田雅之 (北海道環境科学セ)・富士田裕子 (北大・FSC・植物園)
- P17 ススキ草原における火入れ前後の埋土種子群, 佐々木裕子 (岩手大・院・人文社会)・竹原明秀 (岩手大・人文社会)
- P18 箱根仙石原湿原の火入れ後の植物相と植生の変化, 田中徳久 (神奈川県立生命の星・地球博物館)・井上香世子 (仙石原湿原保全調査ボランティア)・松江大輔 (箱根町立箱根湿生花園)・仙石原湿原保全調査ボランティア
- P19 失火による延焼が河川高水敷の草原群落の種組成に与えた影響, 吉川正人・星野義延 (東京農工大・農)
- P20 三宅島2000年噴火火山灰堆積地におけるススキ群落の発達過程と土壌諸性質の変化, 新谷尚己・田村憲司・上條隆志・東照雄 (筑波大・生命環境科学研究科)
- P21 植物の機能型構成からみた草原植生の約25年間の変化, 大津千晶・星野義延 (東京農工大・院・農)・大橋春香 (東京農工大・フロンティア農)
- P22 山梨県甘利山草原における人為的管理が植生および開花数に与える影響, 久保満佐子 (国土交通省国土技術政策総合研究所)
- P23 墓地が半自然草原の生物多様性保全に果たす役割, 高島基郎 (兵庫県立大・院・緑環境景観マネジメント研究科)・澤田佳宏・藤原道郎・山本聡・大藪崇司 (兵庫県立大・自然・環境科学研究所/兵庫県立淡路景観園芸学校)
- P24 造成地において放置年数と土壌の状態が雑草群落の遷移に及ぼす影響, 米原幸子・永松大 (鳥取大・院・地域)
- P25 東京湾臨海埋立地の造成緑地における植生の現状と将来予測, 近藤一樹・福嶋司 (東京農工大・院・農)・伴武彦 (東京農工大・院・連合農)
- P26 伊豆大島三原山カルデラ床北東部における植生回復と土壌養分蓄積, 坂岡由里江・田村憲司・上條隆志・東照雄 (筑波大・生命環境科学研究科)
- P27 沖縄島中城湾北部の国内外来種ヒルギダマシの群落構造と生育立地, 平中晴朗・塩根嗣理・田端重夫 (いであ(株))・桜井雄 (沖縄環境調査(株))
- P28 北海道北見地方における固有種エゾママコナの生育立地の特徴, 板垣友規子・星野義延 (東京農工大・院・農)・佐藤謙 (北海学園大・工)
- P29 ニホンジカの高密度化に伴う植生の改変が鳥類群集に与える影響, 奥田圭 (東京農工大・院・連合農)・小金澤正昭 (宇都宮大・農・演習林)
- P30 仙台平野の里地農家における屋敷と屋敷林(イグネ)の景観生態学的描写, 内山槇子 (東北学院大学・院・人間情報学)・平吹喜彦・三塚明典・小野寺裕太 (東北学院大学・教養・地域構想)
- P31 岐阜県瑞浪市大湫盆地コアの花粉分析から見た植生変遷, 守田益宗 (岡山理大)・神谷千穂 (明治大)・佐々木俊法 (電中研)・宮城豊彦 (東北学院大)・須貝俊彦 (東京大/JAEA客員研究員)・柳田誠 (阪神コンサルタンツ)・古澤明 (古澤地質)・藤原治 (産総研/旧所属: JNC)
- P32 個体ベースで天然林動態を扱う動的全球植生モデル(SEIB-DGVM)を用いた人工林動態の研究, 森有史・渡邊誠一郎・佐藤永 (名古屋大・院・環境学研究科)
- P33 Ecological study about the evergreen broadleaved temple forest of S. Korea, Sung-Je Lee, Keiichi Ohno (Graduate school of environment and information sciences, Yokohama National University)
- P34 カンボジア・トンレサップ湖岸低地域にみられる「暮らし-植生景観パターン」多様性とその生態系マネジメント評価, 平吹喜彦 (東北学院大・教養)・荒木祐二 (東大・アジア生物資源環境研究センター)・鈴木邦雄 (横浜国立大)・塚脇真二 (金沢大・環日本海域環境研究センター)・富田瑞樹 (東京情報大・総合情報)・パオハン (APSARA Authority)
- P35 モンゴル国ステップに分布する土壌の特徴, 田村憲司・井佐美佳・浅野眞希 (筑波大・生命環境)・ウンダルマー・ジャムスラン (モンゴル農業大学)

- 
- P36 南極の湖沼底に生育する蘚類の分類と遺伝構造. 加藤健吾 (総研大・極域科学)・伊村智 (極地研)・神田啓史 (極地研)